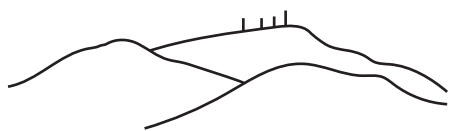


Youth Manna

2021/11/29 - 12/5



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/11/29(月)

ローマ 16:1-16

読み進めてきたローマ人への手紙も、いよいよ最終章！パウロは、最後にローマの教会へ、自分の愛する兄弟、姉妹を一人一人名前を挙げて推薦している。彼らは、パウロを命を懸けて守り、助け、養ってきた存在である(2,4,7,13)。しかし、彼らはただパウロに与えただけではない。彼らはイエス様からとりなし、祈られ、愛と沢山の恵みを受けて、それをパウロに同じようにしただけなのかもしれない。

また、5節に「家の教会」という言葉が出てきていることにも注目しよう。家々で集まり、家が教会となる、私たちの家の教会の原型は、この時から見られていた(コロサイ 4:15も参照)。今日、イエス様がとりなしてくれたように(ローマ 8:26-27)、家の教会のメンバーの名前を一人一人挙げて祈ろう！また、自分が祈ってほしいことを整理してみよう！

2021/11/30(火)

ローマ 16:17-27

この当時のローマの教会では分裂とつまずきをもたらす者の攻撃がありました。(17)パウロはそれに警戒するように注意し、その霊的戦いに打ち勝つ秘訣としてイエス様に従順であり続けることと、善(神様に喜ばれること)に敏感で、悪にうとくある(近づかない)ようにと言いました。(19)

- 今日できる神様に喜ばれることは何だろうか？
- 遠ざかるべき悪は何だろうか？

2021/12/1(水)

ヨブ記 32章

この箇所ではエリフが口を開く。これまで彼は、ヨブと三人の友人との議論に口を挟まなかったが、説得力のない友人たちのことばに思いを抑えきれなくなり、怒りを燃やしながら語り始める。

まずエリフは、三人の友を責める。彼らがヨブの高慢の罪を認めさせられなかったこと、ヨブの問題は神のさばきに任せると突き放したためである。エリフは怒りを覚えながらも、ヨブを理解しようと語り、ヨブの神への間違った態度を正していく助けとなった。エリフは真っ直ぐに神から授かったことばを語った。物事を解決するのは人間の知恵ではなく、神の知恵にあることを理解していたからである。

エリフの姿からわかるように、物事を解決する知恵は、私たちが考えて出てくるものではなく、祈りの結果神から与えられるものである。問題を抱えているとき、まず神に祈り、神からの知恵を求めて祈ろう！

2021/12/2(木)

ヨブ記 33:1-13

(1-7節)エリフのことばは、ヨブの3人の友とあまり変わらないが、語る目線が明らかに違った。

3人の友は明らかに上からの態度だったが、エリフは対等であった。対等な視点からヨブの間違いをまっすぐに語り、12,13節であるように、神様と争おうとせずに恐れるように言っている。

神様を恐れるという本来当たり前のことを、いつの間にかあいまいにしていることはないだろうか？それは高慢である。神様は共におられるが対等ではない。真に神様をおそれ、うやまおう！！

2021/12/3(金)

ヨブ記 33:14-33

あなたは辛い時に「なぜ神は祈りに答えてくれないのか」と思ったことがあるだろうか。エリフは多くの場合神様は答えていないのではなくて夢や幻(15)体の痛みを通して(19)など色々な方法で語っているけど、人はそれに気づかないと言っています(14)。エリフはそれと同時に、この試練の時こそ仲介者が必要だと(神があまりにも清いので直接交われないため)以前のヨブの訴えに同意しています(23)。エリフは間違いを正しつつ、ヨブに寄り添ってもしました。

●新約時代の私達はイエス様という仲介者がいるので自由に神様と会話できることを感謝しよう！

●今日も色々な方法で語ってくださる神様の声に気付けるように祈ろう！！

2021/12/4(土)

ヨブ記 34:1-15

エリフがヨブに続けて語っている部分だね。今日の箇所でもエリフはヨブが間違ってしまった部分を伝えようとした。それは、「自分が正しく、神様が自分の正しさを取り去った」と思っている部分だったんだ。

ヨブが悪いことをした罰によって苦しみがあるとは言わず、ヨブが今持っている罪だけを的確に伝えたんだね。私たちがたとえそのみこころを理解できないとしても、神様には決して不正なことはなく、えこひいきもない。神様を信頼して、理解できないということは素直に分らないと受け止めるべきだと教えているエリフ。私たちは神様に対してどのくらい信頼、確信を持っているかな？思い巡らしてみよう！

2021/12/5(日)

ゼカリヤ 9:1-10

9,10節には、王として来られるイエス様のことが預言されています。実際に9節の預言どおり、イエス様が子ロバに乗ってエルサレムに入城した時には民衆は「ホサナ」の声で喜んで迎えました。

ですが、その週のうちに彼らは「十字架につける」という声に変わりました。それは人々が、イエス様が人を救うためにしもべの姿で来られた王であることを理解できなかったからでした。

今日の箇所には、イエス様がどのような方なのか書いてあります。9,10節を読んでイエス様のことを思い巡らしましょう。また、私たちは「しもべとなられた王」をどのような心で迎えようとしているでしょうか？今一度イエス様を迎える迎え方を考えてみましょう。